

未来へつながるみんなの学び舎。

「豊かな学び支援室」がオープン

●問Ⅱ学校教育課 TEL 23 - 0424

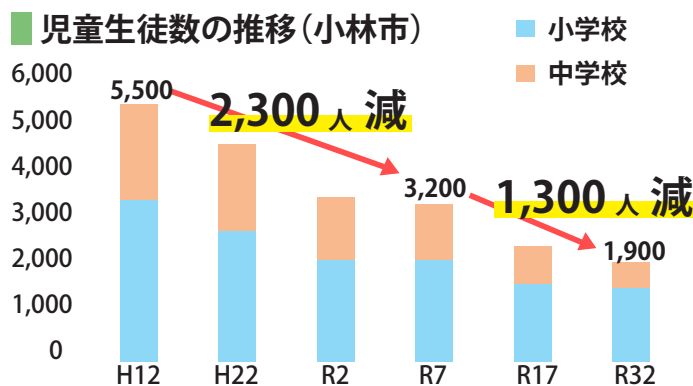
変化する教育環境と 教育課題の多様化

近年、全国で進む少子化に伴い、学校に通う子どもたちの数が減っています。平成12年に約5500人いた市内の児童生徒数は、現在、約3200人。この25年の間に4割以上少なくなりました。このまま少子化が進むと想定した場合、25年後の令和32年には、約1900人にまで減少する見込みとなっています。子どもたちを取り巻く環境の変化は子どもたちの数だけではありません。この25年で私たちの暮らしは大きく変わりました。特に、多くの人がスマー

トフォンを手にし、SNSで気軽につながる事ができる社会になったことは、子どもたちの生活やコミュニケーションのあり方を一変させました。一方で、このような急激な変化は教育現場に新たな課題も生み出しています。SNSでのトラブルがきっかけとなるいじめや、さまざまな理由から学校に行きづらさを感じる不登校の児童生徒は全国的に増加傾向にあり、小林市も決して例外ではありません。子どもたち一人ひとりが抱える悩みは複雑化しており、学校だけの力で対応することが難しくなっているのが実情です。



小林市
豊かな学び支援室



また、世界中の情報に瞬時にアクセスできる便利な時代になった一方で、未来を生きる子どもたちには、単に知識を覚えるだけでなく、あふれる情報の中から正しいものを見極め、自ら考える力、そして多様な価値観を持つ人たちと協力し合うコミュニケーション能力など、より実践的な能力が求められています。

技術を磨き、学び続ける必要があります。こうした社会の急激な変化に対応するためにも、教育は学校だけが担うものではなく、家庭、そして地域社会全体で子どもたちを支え、育んでいく仕組みづくりが求められています。

地域で支える学び舎「豊かな学び支援室」

そして、子どもたちの多様な能力を伸ばしていくためには、教職員自身も時代の変化に対応し、常に指導

こうした現状と課題を踏まえ、これからの小林市を担う子どもたちの学びを支

えるため、市は8月20日、新たな教育支援の拠点として「小林市豊かな学び支援室」を開設しました。この施設は、これまで別々の場所にあった支援機能を集約し、子ども、保護者、地域、そして学校をつなぐ3つの役割を担っています。

第一に、児童生徒の多様な学びに応じた支援です。学校に通うことが難しい子どもや保護者のための総合相談窓口として、学習支援はもちろん、多様な学びの機会を通して一人ひとりの社会的な自立を力強くサポートします。第二に、協働の学校づくりの推進の拠点です。保護者や地域住民の皆さんが学校運営に参加しやすくなるよう、その「架け橋」となり、地域総ぐるみで子どもたちを育てる、魅力ある「地域とともにある学校づくり」を進めます。第三に、教職員の研究・研修の充実に向けた拠点です。教職員の指導力を高めるための研修を企画・支援

し、市の教育全体の質の向上を目指します。今回開設した「豊かな学び支援室」は、子どもたちが、ふるさと小林に自信と誇りを持ち、変化の激しい社会を力強く生きていく力を育むための拠点です。この「豊かな学び支援室」を新たなスタート地点として私たちが主役となり、地域全体で子どもたちの未来を応援していきましょう。



▲施設はテナムビル2階、木育キッズスペースがあった部屋をリフォームして開設



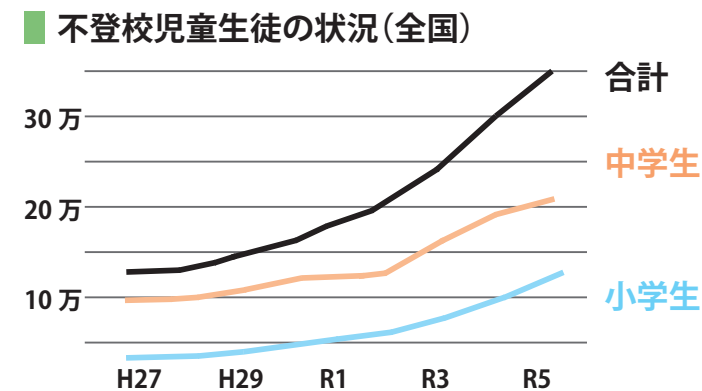
▲学校に通うことが難しい子どもたちの保護者の相談スペース。いつでも、どんなことでも相談できます



▲午前中は学校に通うことが難しい子どもたちの学習室。午後は誰でも自由に使用できます



▲8月20日の開所式の様子



3つの役割を紹介

児童生徒の多様な学びに応じた支援の拠点

小林市教育支援センター「ふれあい学級」

豊かな学び支援室では、さまざまな事情で学校に通うことが難しい児童や生徒を支援するため「ふれあい学級」を設置しています。

学習や体験的な活動を通して自主性を養い、将来への社会的自立等につながるよう支援しています。

ふれあい学級では学習と体操の時間を設定。学習では学校と連携し、本人の思いを大切にしながら学習内容を決定し進めています。

子どもたちと関わる支援員らは実際に学校で教職員として活動してきた経験豊富な人材などを中心に構成。教職員になることを希

望する、南九州大学の学生もふれあいサポーターとして子どもたちを支援します。

今後、月に一度、体験活動を企画し活動の幅を少しずつ広げていきます。

Information

対象

市内の小中学校に在籍する児童生徒

利用時間など

月曜～金曜

8:30～12:00

※夏休み、冬休み、土日、祝日は除く

Q & A

どのようなことをするのですか？

学校と連携して、本人の思いを大切にしながら学習や活動内容を定め、進めていきます。分からないときや困ったときは、支援員を中心に個別に寄り添い、支援します。

どのような方法で通えばいいですか？

徒歩や自転車、保護者による送迎など、本人に合った方法で通うことができます。

保護者へのサポートなどがありますか？

相談はいつでも受け付けています。お子さんの家庭での生活や進路のことなど、お気軽にご相談ください。
【相談窓口】0984-23-0228

Interview



南九州大学4年
【写真左】川畑姫菜さん（野尻中出身）
【写真右】吉野喜生来さん（小林中出身）

私たちは、将来、学校の先生になることを目指して大学で勉強しています。この度ご縁があって、「ふれあい学級」のふれあいサポーター活動をするようになりました。ここは、さまざまな理由で学校に通うことが難しい子どもたちのための大切な居場所です。

これからふれあいサポーターとして活動する上で、私たちが大切にしたいのは、子どもたち一人ひとりとしっかり向き合い、まずおしゃべりすることから始めることです。そして、ここを子どもたちにとって「いつでも気軽に来られる、自由な場所」にすることです。「行きたいな」と思った時にふらっと立ち寄れて、安心して過ごせるような温かい空間づくりのお手伝いができればと思っています。

私たちは2人とも小林市出身です。こうして大好きな地元で活動できることが本当に嬉しいです。これから始まる子どもたちとの出会いに、今から胸をふくらませています。

協働の学校づくりの推進拠点

こばやしスクールサポーターボランティアセンター（KSSVC）

これまで中央公民館に設置していましたが、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して取り組む活動を推進するために移設しました。

地域の教育力を学校の教育に生かすことで、さまざまな体験活動の実現や郷土愛の醸成、地域の活性化などの効果が期待できます。

小林市キャリア教育支援センター

市内小中学校と地元産業界や地域社会の連携・協働によるキャリア教育の構築と児童生徒の産業界に対する理解を深めるために商工会議所に設置しています。今後はKSSVCと連携を強化し、児童生徒が主体的に自らのキャリアを形成できるように支援します。

教職員の研究・研修の支援の拠点

小林市教育研究センター

児童生徒と直接向き合い授業を行う教職員の学びを支援するために、研究員として委嘱された教職員が研究を進めます。

研究員による授業を公開するとともに、実践を通して得られた成果と課題を市内の教職員に発信します。

小林教育の

新たな一歩

これまでの本市における教育は、学校と家庭、地域、各種ボランティアなどによる連携・協働（協働の学校づくり）によって、確実に力強く進展されてきました。

しかし、時代の変化に伴い、本市におきましても少子化や学校の小規模化、不登校児童生徒の増加、情報化社会への対応など、新たな課題の波が押し寄せてきております。

これからは、小林教育の伝統や強みを継承しつつ、時代の変化に合わせた教育を柔軟に展開していく必要があります。

そこで、このたび「小林市豊かな学び支援室」を設立しました。この支援室では、協働の学校づくりと不登校支援、そして教員研修の連携強化と一体的な運用を図ることで、児童生徒と教職員の豊かな学びの実現

を目指します。

例えば、不登校児童生徒への支援については、学校以外の場所でも、将来の社会的自立に向けて一人一人が豊かに学べる環境を整える必要があります。

そこで、協働の学校づくりの機能をいかして、大学生ボランティアとの交流やICTを利用した学習、地域での体験活動などに取り組みます。

また、この支援室は先生方の学び場でもあります。よりよい授業や効果的なICTの活用について研究を行い、学んだことを各学校で活かすことで、市全体が豊かな学びにつなげていきます。

豊かな学び支援室が、子どもたちと先生方の未来に向けた学びの一步となるように、これからも取り組みを進めてまいります。

心の支えになる

居場所

私は昨年度まで教職員として働き、今年度からKSSVCでアドバイザーとして小林市の教育に携わってきました。その中で「学校と地域のつながり」は子どもたちにとってとても良い教育環境になっていると感じてきました。

今回、少しでも子どもたちや先生方の力になりたいと思い、支援室の室長を引き受けました。

まずは、児童生徒と保護者、先生に対する支援を行い、さらに地域の教育の力を活かしていきます。

支援室では、主に、私をはじめ支援員2人が常時指導にあたりますが、南九州大学の学生たちもふれあいサポーターとして、週に1回程度指導にあたります。学生の若い力に期待しています。

学習は児童生徒との関係を大事にしなが、勉強したいことややりたいことを

これから、豊かな学び支援室の名前にふさわしい場所にしていき、一人でも心の支えになる場所になれたら嬉しいです。



豊かな学び支援室

ゆかわ しょういち
湯川 昌一 室長



小林市教育委員会

おおやま かずひこ
大山 和彦 教育長